

## 研究計画書

ゼミ名	高ゼミⅡ	チーム名	you've got mail
タイトル	孤立する日本の携帯電話産業		
テーマ群	e)産業・企業		
メンバー	渡利眞幸 宝木駿佑 中将紀 小川真理恵 宮永和沙 二杉舞 佐野瑞樹 酒井綾乃		
研究計画内容	<p>1,日本の携帯電話産業は、激しい国際競争の中で低迷し続けています。日本メーカーは技術的優位を持っているにもかかわらず、シェアを獲得できていません。この理由について分析していきます。</p> <p>2,日本の携帯端末は世界シェアで見るとわずかしこ占めていません。その理由として第一に、第二世代の技術標準において、日本はPDCを採用しました。しかし、世界の技術標準とはなりません。そのため、PDC向けの携帯端末を生産していた日本メーカーは、外国で採用された技術標準に合わせた携帯端末を生産するには障害が大きいという問題がありました。</p> <p>第二に、日本ではNTTドコモ・KDDI・ソフトバンクの通信事業者が強いリーダーシップを持っている点をあげることができます。そのため通信事業者が、携帯端末メーカー、ソフトウェア、コンテンツ、部品、流通を囲い込む、垂直囲い込みという構造があり、携帯端末メーカーの独自の発展を妨げています。</p> <p>第三に、通信事業者と契約しなければ端末を買えないというバンドル販売が100%である点があげられます。こうした背景により、日本携帯産業のガラパゴス化が顕著になっています。</p> <p>3,スマートフォンは、近年ますます普及してきています。2010年第一四半期の世界のスマートフォン市場シェアはNokiaが約40%を占めていてトップでしたが、2011年の第二四半期には、Appleがトップになり、2012年の第一四半期には、Samsungが最も大きな市場シェアを占めています。また、日本国内のスマートフォン市場では、日本メーカーが50%のシェアを占めていますが、日本のスマートフォン市場シェアは世界全体の4.2%に過ぎないので世界全体のスマートフォン市場では日本メーカーの地位は低い状態です。</p> <p>以上の観点から、日本の携帯電話産業の課題を述べていきます。</p>		